開会の辞

日本語教育センターシンポジウム 2015

大学の国際化と日本語教育におけるプログラム評価
― 過去・現在・未来 ―

統括副総長、経営学部教授
白石　典義

○**栗田**　皆様、本日はお忙しい中、立教大学日本語教育センターシンポジウム 2015 にご参加くださいまして、まことにありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます日本語教育センター員、栗田奈美と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

　初めに開会の辞を頂戴いたします。立教大学統括副総長・経営学部教授、白石典義先生、お願いいたします。

開会の辞

○**白石**　皆さん、こんにちは。本日は立教大学日本語教育センターのシンポジウムにお越しいただきまして、誠にありがとうございます。私は昨年度までは統括副総長の職に加え国際化推進担当を兼任し、立教大学全体の国際化の推進に向けて、いろいろな仕事をしてまいりました。とりわけ昨年度は、スーパーグローバル大学の申請作業を全学的に進めることができ、幸いなことに採択されました。その申請内容については後ほど、私の後任の国際化推進担当である山口和範副総長から詳しくお話ししていただきますが、留学生受入れの計画について少し触れたいと思います。今、立教大学には留学生が約 750 名おりますが、それを今後の 10 年間を見据えて、最初の 5 年間で 2 倍、その次の 5 年間で更に 2 倍というように、合計 4 倍にしようという計画を設定しました。このような計画に則って、日本語教育については、積極的に多くの留学生を受け入れると共に、1 年間のプログラム、学期単位のプログラム、さらには短期プログラムを提供するな

日本語教育センター員

栗田　奈美

ど、いろいろな形態で日本語教育に力を入れていきたいと思っています。日本語教育センターの池田先生からは、そのためには人材や場所を用意することが重要だと常に言われております。

　ところで、今日の講師である田丸先生は国際大学で長年教鞭をおとりになりましたけれども、実は私、立教大学へ来る前の前任校は国際大学でして、田丸先生とは 4 年間同僚でした。かれこれ 30 年前になりますが、そのころは日本語教育の黎明期であり、田丸先生は国際大学の日本語教育の主任でいらっしゃいましたので、やることなすことが新しいことばかりという中でさまざまなご苦労もあったと思います。翻って、今日のこのような席で、あの頃にご一緒していました田丸先生を立教大学にお迎えして、私が挨拶できるというのは、本当にうれしい気持ちがします。

　今日はぜひとも、これから 3 時間程度ですか、活発な意見交換をしていただければと思います。ここ数年、立教大学は施設・設備の充実を進めてまいりましたので、ご出席の皆様には図書館を含め校内をご見学いただきたいと思っております。皆様の立教大学訪問を心から歓迎すると共に、今日のシンポジウムが実りあるものとなるよう心より祈念しまして私の挨拶といたします。本日はよろしくお願いします。（拍手）

○**栗田**　白石先生、ありがとうございました。